

言いかえてみよう！慣用句プリント⑤

自分で書いた文を慣用句で書きなおそう

なまえ _____

ひづけ _____

1 慣用句を、ふつうの言い方に書きかえよう

ヒントの言葉は ありません

(1) ぼくの父は 顔が広い。

(2) 弟は兄の注意に 耳を貸さない。

(3) 生まれたばかりの妹は 手がかかる。

(4) 先生は 新入生に 目をかけて いる。

(5) かぜを ひいた 母に、父は 気を配って いる。

2 自分の文を、慣用句で書きなおそう

- ① あ・い・う の おだいで、箱の ことばの 意味に 合う ことを、慣用句を 使わないで ①に 書く（短い 文で よい）
 - ② ①と 同じ 意味に なる ように、箱の 慣用句を 使って ②に 書きなおす
 - ③ ②が できたら、見なおして □に 印を つける
- れい ① お客様の 前で、おとなしい ふりを した。 → ② お客様の 前で、猫をかぶった。

あ 学校で あった ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

い 友だちと あそんだ ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

う 家の 手つだいを した ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

ことばの 箱（意味つき）

骨が折れる＝たいへんで 苦労する

頭を抱える＝どう すれば よいか わからず こまる

鳥肌が立つ＝感動して ぞくっと する

手を尽くす＝できる かぎりの ことを する

顔から火が出る＝はずかしくて 顔が まっかになる

腕が鳴る＝自分の 力を 見せたくて うずうずする

心を打つ＝感動させて 心に のこる

気が引ける＝もうしわけなくて 気おくれする

